

令和7年度国際文化交流学科 一般選抜（中期日程） 小論文 出題意図

〔問1〕

筆者がジョン・アーリを引用して本文中で用いている「記号」の意味を、文中に挙げられた具体例から適切に解釈する読解力と、具体例から導かれた語句の意味を適切な言葉で表現する文章表現力を問うている。

〔問2〕

筆者はツーリストのまなざしを「集合的まなざし」と、「ロマン主義的まなざし」に分類し、両者を対比させることにより、観光における「共同性/個別性」「平等化/差異化」について解説している。ここでは、2つのまなざしの定義を正確に読み取る読解力と、その差異と両者の特徴から、ロマン主義的まなざしのエリート主義的な側面を明確にする論理的な思考力を問うている。また、導かれた答えを適切に説明できる文章表現力を問うている。この問題は、本学部のアドミッションポリシー（入学者選抜の方針）の中にある「与えられた情報をもとに筋道を立てて論理的・分析的に思考し、自分の言葉で表現できるか」を問うものである。

〔問3〕

筆者は、ツーリストが持つ「観光のまなざし」を「集合的まなざし」と、「ロマン主義的まなざし」に分類し、それぞれのツーリストの特徴を本文中で具体的に論じている。それらのツーリストの特徴を本文から正確に理解する読解力を問うている。その上で、これらツーリストの特徴が観光客を受け入れる観光地や地域社会にどのような利益や弊害をもたらすか、現在の社会で生じている現象、問題と結びつけて考察する思考力とそれを自らの言葉で論理的に表現する力と独創性を問う。この問題は、本学部のアドミッションポリシー（入学者選抜の方針）の中にある「国際問題や地域の問題など、身の回りで起こっていることに常に関心を持ち、自らの考えを明確にできるか」を問うものである。

出題意図

[問 1]

人間にとっては似たような課題であっても、AI にとっては完全に異なる課題である場合が多い。しかし、私たちは、高度に知的な課題をこなす AI に対し、ある特定の課題ができるのであれば、別の課題もできるはずだと考えてしまいがちである。このことを本文から読み取り、簡潔にまとめることができるかをみる。

[問 2]

機械は必ずしもある課題のやり方を別の課題に応用できるわけではない。一方、人間は目の前の課題ごとにすべてを切り替えるわけではなく、ある課題で使う知識や能力を他の課題にも活かすことができる。課題のやり方に関する機械と人間のこのような相違点が、機械が人間と同じ知性を持つとはいいがたい理由につながっているのである。このことを理解し、的確に説明できるかをみる。

[問 3]

私たちが外国語学習をするとき、膨大な時間と労力が必要であり、AI に比べると非効率的にさえ見えるかもしれない。しかし、外国語学習は、目標言語の語彙・文法規則の習得にとどまらず、当該言語文化圏の社会、文化、歴史、さらにはコミュニケーション上のエチケットの理解なども含み、そこには多岐にわたる知識や能力の活用が関わると考えられる。特定の課題に強くても、AI は人間と同じ知性を持つわけではないという論旨をつかんだうえで、AI には欠如していると思われる外国語学習の特徴を自分なりに見出し、その意義を自らの言葉で論理的に説明できているか、独自性、論理性および文章力を総合的にみる。